

第97回 | 株 主 通 信

2021年4月1日～2022年3月31日



「ボンド」発売70周年
since 1952



代表取締役社長 **大山 啓一**

株主の皆様には、日頃よりコニシグループにご支援いただき、厚く御礼申し上げます。

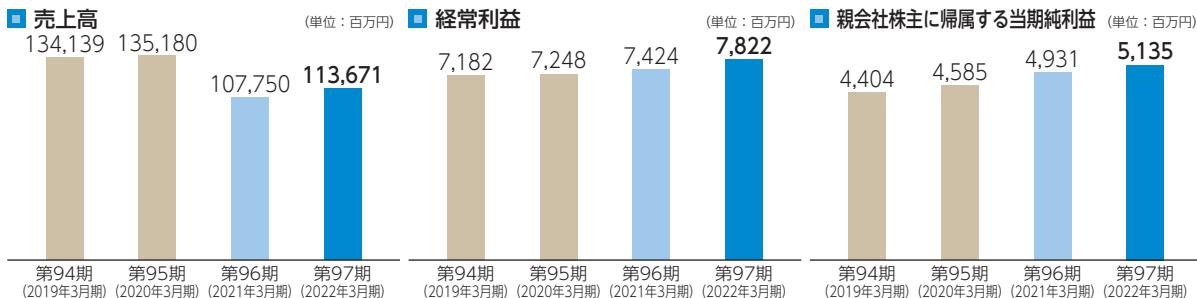
コニシの歩みは、1870年創業の薬種商から始まり、その後、洋酒や工業用薬品の販売へと事業を拡大し、1952年には合成接着剤「ボンド」を開発しました。現在は、合成接着剤「ボンド」などを製造・販売するメーカーとしての「ボンド事業」、化学品を扱う専門商社としての「化成品事業」、社会インフラおよび建築ストック市場の維持・補修・改修を目的とした「工事事業」を主力の3事業として、「つなげる」ことを理念とし、さらなる事業展開を図っております。

また、2022年は合成接着剤「ボンド」発売70周年となります。これまで培ってきた技術と知見を生かして、市場や業界のニーズに合わせた製品を開発していきます。

コニシにとって、「つなげる」は多様な意味を持ちます。

- 一つは、様々なモノをくっつけること。
- 一つは、人やモノや情報をつなげること。
- 一つは、様々なモノを次代へ、より長きにわたって継いでいくこと。
- 一つは、お客様の思いや夢を形として具体化すること。

これからも「つなげる」ことにどこよりもこだわり、これまでの事業を継続し発展させるだけでなく、新分野・新領域の開拓にも挑戦し、さらに快適な明日の暮らしに貢献して参ります。皆様には今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第97期の期首から適用しており、第96期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

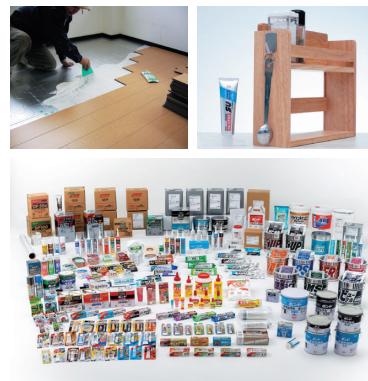
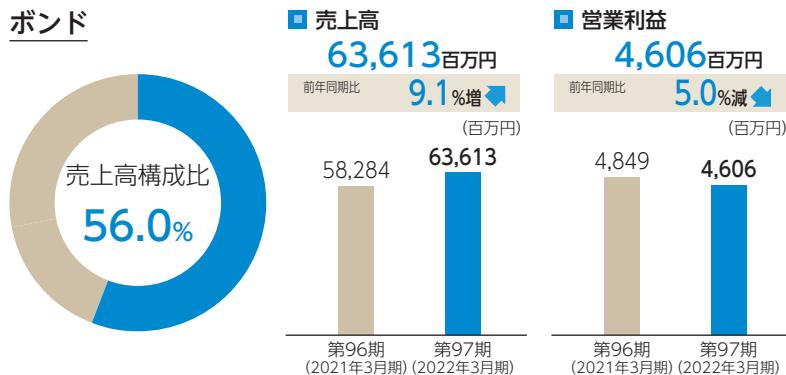
事業区別の状況

【ボンド】

一般家庭用分野においては、昨年の巣ごもり特需による反動減もあり売上は減少しました。住関連分野においては、新設住宅着工戸数の回復に伴い、内装工事用や内装建材用接着剤の売上は増加し、産業資材分野においても、紙関連用途向けの水性接着剤や自動車・電子部品等に使用される弾性接着剤などが好調に推移し売上は増加しました。また、土木建築分野においても、土木、建築補修用に使用する材料や建築用シーリング材の売上が増加するなど売上は全体的に回復し、好調に推移しました。しかしながら、接着剤やシーリング材に使用される原材料の価格が、第3四半期以降大きく高騰しており、製品価格改定は実施しているものの、利益は減少となりました。

以上の結果、売上高は636億13百万円(前年同期比9.1%増)、営業利益は46億6百万円(前年同期比5.0%減)となりました。

ボンド

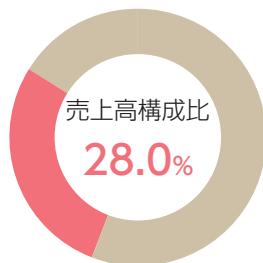


【化成品】

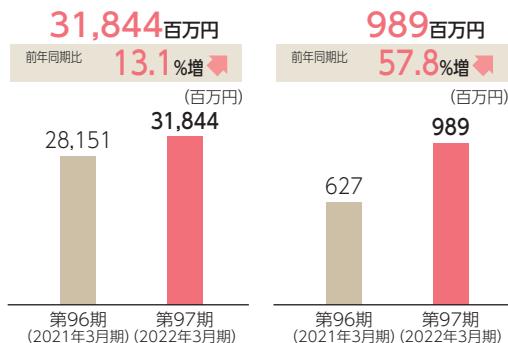
化学工業分野においては、エタノール関連商材の売上が昨年の特需による反動で減少したものの、樹脂原料の販売は好調に推移し、売上は大きく増加しました。自動車分野においては、車載電子部品に使用される商材の売上は大きく増加しました。また、電子電機分野における放熱封止材用の商材、塗料分野における商材においても、売上は増加しました。丸安産業(株)は、半導体製造に使用される商材およびコンデンサ用商材が好調に推移したことにより、売上は大きく増加しました。

以上の結果、売上高は318億44百万円(前年同期比13.1%増)、営業利益は9億89百万円(前年同期比57.8%増)となりました。

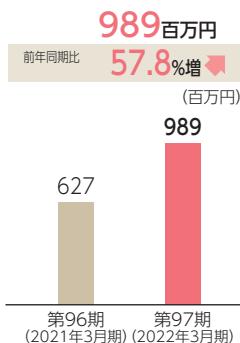
化成品



■ 売上高



■ 営業利益

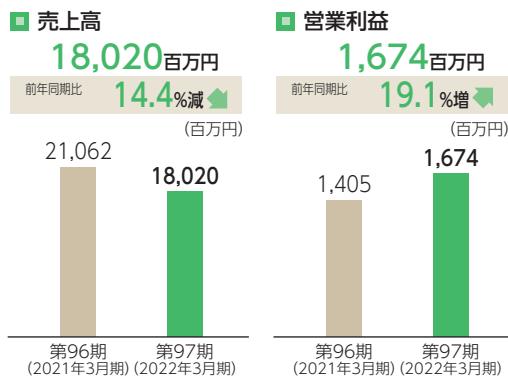


【工事業】

工事業においては、昨期に大型工事案件があったため売上は減少しましたが、計画どおりに推移しました。また、公共事業を中心としたインフラおよびストック市場の補修・改修・補強工事の受注は、好調に推移しました。

以上の結果、売上高は180億20百万円(前年同期比14.4%減)、営業利益は16億74百万円(前年同期比19.1%増)となりました。

工事業



【その他】

その他は不動産賃貸業等となります。売上高は1億93百万円(前年同期比23.5%減)、営業利益は17百万円(前年同期比91.0%減)となりました。

合成接着剤「ボンド」は発売70周年を迎えました

当社は、1952年に合成接着剤「ボンド」を開発しました。「ボンド」は発売以来、顧客に寄り添った製品開発を行うことで、人々の暮らしや住まい、ものづくりや社会づくりの中の「つなげる」シーンで、変化を生み出し、さまざまなニーズに応じてきました。

たとえば、最初に販売した製袋用「ボンド CFシリーズ」や電話帳、文庫本の製本用「ボンド Bシリーズ」は製造プロセスを大きく変えるものとなりました。また、日本初の木工用エマルジョン形接着剤「ボンド CHシリーズ」は、接着性がよく、シミが出ず、米飯を使った糊のような練る手間も要らないなどのすぐれた性能で、家具や建材の作り方を一変させました。

さらに、金属用、プラスチック用をはじめ、「ボンド」は日本初、業界初の製品を開発してきました。

これからも、これまで培ってきた技術と知見を大切に、技術と品質に磨きをかけて、市場や顧客のニーズに応えられる合成接着剤や工法など「ボンド」製品を生み出して参ります。



「ボンド Bシリーズ」 1952年
製本方法で特許を取得。当時の針金綴の本は見開くことができず綴じ目周辺を空白にする必要があったが、ボンド Bシリーズを使用した無線綴製本は見開くことができ印刷も用紙全体にできるようになった。



「ボンド」接着技術講習会 1959年



「ボンド CHシリーズ」 1953年
日本初の木工用エマルジョン形接着剤。全国での講習や実演販売を通じて、建具・建築市場などへの普及活動を行った。



「ボンド E」 1955年
エポキシ系金属用接着剤として1955年に日本で初めて市販を開始した。



「建築用合成ゴム系接着剤」 1962年
通称「速乾ボンド」と呼ばれる接着剤。合成ゴム・皮革・金属板・布・木・陶磁器・硬質プラスチックの接着に、またこれらの材料と木材・スレート・PC板・コンクリートの接着に便利で、建築現場施工用として幅広く当時から使われている。

「ボンド 木工用」パッケージの変遷



1957年

国内初の家庭用「ボンド 木工用」。使い勝手のいいチューブ入りで学校教材として大人気に。



1962年

家庭用として本格的に登場した。親しみやすさを込めてボンちゃんマークを使用。



1969年

こけし型の容器を採用した。



1972年

黄色い容器に赤いキャップという、現在のパッケージの原型を形づくったモデル。

1974年

「ボンド」の書体を一新し、現在のロゴタイプの原型となった。



1979年

安定感を感じさせるなど肩のデザインにリニューアルし、フォルムも現在のものとほぼ同じになった。



1999年

ブランドロゴを一新するとともに、新しいブランドマークを入れた。「木工用」よりも「ボンド」を中心に打ち出した。



2001年

グリーンスピリッツマークを表示。中身の成分を改良し、より人や環境に優しくなった。



2002年

容器に再生プラスチックを採用。エコマークを取得した。2007年（発売50周年）に立体商標を取得。



2010年

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞した。



ボンドキャラクターを掲載したトラック



「ボンド 木工用」広告



名古屋出張所 1957年

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主
確定日 3月31日

中間配当金受領株主
確定日 9月30日

定時株主総会 6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL
<http://www.bond.co.jp/ir/koukoku/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



本社 / 〒541-0045 大阪市中央区道修町1-7-1 TEL 06(6228)2811



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。



この印刷物は、環境に配慮しFSC®
の認証紙と水なし印刷方式を採用
しています。